

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

棒ノ折山－奥多摩の日だまりハイキングー

岩茸石山から振り返り眺める棒ノ折山



3月中旬、奥多摩・棒ノ折山(969^トル)に出かけた。ガイドブックによれば、棒ノ折山・岩茸石山は奥多摩ハイキングの入門コースとのこと。ともあれ春の日だまりの中の足慣らし山行である。

青梅線・川井駅から上日向行バスに15分ほど乗り、終点上日向に着いたのが10時10分。早速、大丹波川沿いの車道を北に向かいテクテク歩く。道沿いに百軒茶屋、中茶屋、奥茶屋などのキャンプ場が看板を連ねている。10時40分、奥茶屋キャンプ場の中ノ橋を渡った所が棒ノ折山登山口。ここで改めて身支度を整え、ゴンジリ沢の登路に入る。しっかり熊除けベルをぶら下げたの登山である。

ゴンジリ沢は急傾斜の狭い沢の中、猫の額程の地積をならして碎石を敷き段々に造成したワサビ田が延々と続く。このワサビ田を親子代々受け継ぎ丹精しておられる農家の人のご苦労に、ただただ脱帽である。

11時10分、登路は沢から離れ、右岸の急斜面のジグザグ登りになる。大汗をかいてやっと尾根筋に飛び出したのが11時半。棒ノ折山の南面を直路、山頂

まで突き上げる尾根である。杉の植生が昼なお暗い堂々たる尾根道の登りに、気持ち良く高度を稼ぎ12時20分、棒ノ折山山頂に到着した。

広々とした山頂広場は、かつてのカヤトの原が刈り払われ、霜融



棒ノ折山山頂

けで泥んこである。

アズマヤやベンチのあちこちに先客が陣取り、弁当を拡げている。北面の眺望が素晴らしい。名栗湖を隔てて有間山～蔵山の稜線、その奥に奥武蔵の山々が連なり、遙か彼方には日光白根山や燧ヶ岳が光り輝いて見えた。

40分間の大休止の後、岩茸石山経由で御嶽駅に下ることにした。山頂に屯した人達は皆、名栗方面に下るらしく、ゴンジリ峠を過ぎると人一人いない。雑木林の中、散り敷いた落ち葉を踏みながら

1人静かな山歩きとなる。登り降り繰り返しではあ

るが、総じて下り一方ののどかなハイキングである。13時25分黒山、14時45分岩茸石山、15時45分惣岳山と過ぎ、御嶽駅到着は丁度17時だった。



雑木林越しの棒ノ折山(黒山から)



棒ノ折山山頂から眺める奥武蔵の山々